

VIEW POINT

飼い主に寄り添うのみならず、社会活動でも地域に大きく貢献

▼火葬炉を6基備え、犬、猫、フェレット、ハムスター、小鳥などのペットたちの火葬を行っている『よこはま動物葬儀センター』。同社は横浜市旭区の妙蓮寺にペットの納骨堂を備え、ペット霊園もサポートしている。同社の葬儀では、飼い主はペットの火葬に立ち会うか否か、遺体を単独で個別火葬するか、合同火葬でも良いか、個別火葬なら遺骨を引き取るか、納骨堂に納骨するかなど、自分の納得のいく形で、その最期を見届けることが可能だ。

▼同社は飼い主たちに寄り添うのみならず、社会

的な活動を熱心に行っていることでも知られる。たとえば横浜市内の小学校で飼育する動物が死亡した時には、ボランティアとして火葬や供養を執り行う。災害時には横浜市獣医師会が被災動物や救護動物を収容する活動をしているが、それらの動物が死亡した場合にも、個別火葬と返骨の活動を無償で行っているそうだ。

▼その他にも、ペットの里親探し活動への支援活動と募金協力、障害者就労援助など、同社の取り組みは実に幅広い。その誠実な社会奉仕の数々も、同社が地域で信頼を得る要因の一つなのだろう。



「従業員と共に先代のイズムを引き継ぎ、次の世代にバトンを渡すことが使命です」

Company Profile

有限会社 報栄

よこはま動物葬儀センター

神奈川県横浜市瀬谷区阿久和南 2-9-1
URL : <http://www.pet-sougi.com>

動物たちの最後のページを真心を込めてお手伝い
創業50年近い歴史を誇るペットのための葬儀会社



代表取締役社長
倉島 丈実

川崎市出身。学業修了後は建設会社に就職し、建築業に従事する。『報栄』に勤めていたおじから声がかかり、30歳で入社。2019年1月に創業社長である先代が他界し、7月に二代目の代表に就任した。



「『いかにも頑固おやじという風貌の人が、火葬場の隅で家族に背を向けて涙を拭いておられたりするのを見ると、心が揺さぶられますね』とおっしゃる倉島社長。ご自身も動物が大好きだそうで、飼い主さんの想いと重なるのでしょうか。単なるビジネスとしてではなく、飼い主さんのお気持ちになってお仕事をされていることが伝わってきました。これからも従業員の皆様とご一緒に、先代が築いてこられたものと思いを引き継いでいって下さい！」

ダンカン (タレント)

1972年に創業された『報栄』は、『よこはま動物葬儀センター』を運営するペット専門の葬儀会社だ。長い歴史と伝統を持つ同社が手掛けてきたペット葬儀はのべ20万件。その培ってきた実績と信頼、そしてペットや飼い主の心に寄り添う誠実さで以て事業に邁進する倉島社長のもとを、本日はタレントのダンカン氏が訪問。社長にインタビューを行った。

創業より50年近い歴史と伝統を持つ
飼い主の心に寄り添うペット葬儀会社

まずは、御社の沿革と事業内容から。当社は1972年に先代社長が創業したペット葬儀会社です。まだ土葬の時代だった45年以上前より地域と共に歩んで参りました。当社の特色は豊富な実績のもと培った、飼い主様に寄り添ったサービス。たとえばペットを火葬した後、お骨を自宅で引き取ってお庭に埋めていただくこともできるのですが、その際の骨壺を角型にして遺骨をなるべく崩さずに収められるようにしたり、容器のまま埋葬でき、容器も土に還る素材を使ったりしているんですよ。そして、長く会社を牽引してきた先代が今年1月に亡くなり、世代交代の意味も込めて私が代表に選ばれ、7月に二代目社長に就任いたしました。

倉島社長がこの業界に入られたのは、どのような経緯があったのでしょうか。実は私は、全くの異業種から転身したの

唯一無二のイズムを持った先代
その良き伝統を次代に引き継いでいく

おじ様には「社長にはこの仕事に向いている」との思惑があったのかもしれないね。ところで、先代はどのような方だったのですか。

私も色々な経営者にお会いしてきましたが、先代は唯一無二です。創業当初の信念は「愛玩動物にも、人間と同じような供養があっても良い」。今では当たり前のことですが、当時としては珍しい考え方、先見の明があったのだと思います。また、人のことを悪く考えず、信頼し続ける方でもありました。建築業者さんに1千万円を超える見積もりを取ったりしないんですよ。また、業者はたいいてい、値引きを要求されることを考慮に入れて、少し上乗せした見積もりを出すのですが、先代はそれを承知の上で、「安くしろ」とも言わない。曰く、「自分だけ食っていったらいいという考えでは駄目なんだ。相手に気持ちよく仕事をしてもらい、彼らの生活が良くなればそれでいいじゃないか」と。その言葉を聞いた時は、目からウロコでしたね。

ほう。普通は自社のことまで頭がいつぱいのところ。なかなか言えない言葉です。その従業員はパートも含めて16名いるのですが、この人数も、先代が「目が行き届く

ちようど良い人数」と話していたもの。私は一度、先代に支店を出してはどうかと進言したことがあったのですが、その時には「支店を出せば目が行き届かなくなる。支店を出してお金を稼ぐのが成功ではない。今いる従業員の生活を守ることができれば、それで充分だ」と言われました。

素晴らしい。様々な立場の人たちに目が行き届き、その人の目線に立って考えられる方だったんですね。

ええ。私もそうした先代の教えや考えを守り、必要以上に人を増やすことはしないようにしています。また、私の使命はこの事業を守り、次の世代にバトンを渡すこと。いわば、リリーフのような存在だと思っています。その中で先代の「イズム」を、従業員と共に引き継いでいきたいですね。

是非守り継いでいっていただきたい伝統ですよ。伝統を守る一方で、新たに取組んでいきたいことはありますか。

色々ありますが、どう具現化するかが今後の課題ですね。特にサービスのオプションについては、もっと選択肢を増やしていきたいと思っています。より早くお骨をお届けし、できるだけ飼い主をお待たせしない仕組みも作っていききたいですね。将来的には5Gが広がる中での新たな展開、たとえば身体が不自由で火葬への立ち会いが叶わない方がご自宅にいてVR体感できるシステムなど――夢のような話ですが、そんな未来を思い描いています。ただ、一番大切なのは誠実な仕事の継続。それを全うしてこそ、信頼の源になると考えています。今後も誠実な仕事を果たし、飼い主さんと時間を共にした動物たちの生涯最後のページのお手伝いを果たしていく所存です。